

第1回湖山地区人権啓発学習会

鳥取県車椅子バスケットボール協会理事長
鳥取県人権学習講師団副団長
菅永幸男先生を招いて（6月14日）

「障害者とその人権について」



第1回湖山地区人権啓発学習会が6月14日、湖山地区公民館で行われた。「障害者とその人権について」と題し、鳥取県車椅子バスケットボール協会理事長、鳥取県人権学習講師団講師の菅永幸男先生を招き、障害者とその人権について講演会が開催された。何となく生活ができていた菅永男先生に突如、不慮の事故が降りかかる。賀露で釣り漁船に乗っていた漁師だったが、平成2年、賀露港内でロープに両足が挟まれ、救急車に乗って気づいたら片足切断。からくも右足は人工血管により切断にはおぼなかつた。しかし、心配は子どものことだった。障害者の子どもということで、いじめに遭うのではという心配だった。夫婦仲も当時はあまり良くなかったので、離婚のことを切り出したら「子どものお父さんはあなただけよ」と言われ、自分は今まで何をしていたんだろうと自滅した。集中治療室に3ヶ月。事故の時に流した血が多すぎて賀露の町民46名の輸血をとった。医者に「46人の血をとったら絶対もたない。肝硬変を起こして死ぬかもしれない」と言われていたが、幸運にも完治した。やがて「車椅子」の生活がはじまり、家で暮らすことになる。友人から「車椅子バスケットしてみないか」と誘われるが、外に出る勇気がわかなかつた。見学の時は人に足を見られるのが嫌で、義足をつけて行った。大して車椅子バスケットは興味が湧かなかつたが、ある日4歳の息子が車椅子バスケットを見て「かっこいい」と言った。何でと聞くと「だってお父さんベッドに寝るとも」と答える。その言葉で強く決心し、今では車椅子バスケットの鳥取県代表選手として活躍をしている。そこに至るまでの強い精神力と家族の支えで今日を迎えられたことの喜び。そして、車椅子バスケットを通じてたくさんの人との出会いが持たせ、障害者にとって豊かな生活が送れる環境が少いことなどもわかってきた。障害者になって思ったことは、行動をすること。嫌わなくても自分がやって、周りの障害者が変われば幸せだ。嫌わなくてもいい、人が助かればうれしいと熱く語った。よくバリアフリー社会（障害のない環境）という言葉を目にするが、この講演を聞いて思ったのは、障害者というくくりだけで人を区別しない社会。そしてその実現を目指すことが本当の意味でのバリアフリーだと感じた講演会だった。

こやま地区同推だより

2004年
平成16年7月発行

発行：湖山地区人権教育推進協議会

第1回湖山地区人権・同和教育研修会
鳥取市人権・同和教育課
加藤淳子先生を招いて

「同和教育をわたしたちのサー・ムひとりのために」
5月18日、湖山地区公民館において鳥取市教育委員会人権・同和教育課の加藤淳子先生を招き、「同和教育をわたしたち一人ひとりのために」と題して講演会が開催されました。内容をご紹介します。

1. 最近の差別事象について
鳥取県の2001年度の報告では学校内での差別発言16件、からくがき1件、地域内での差別発言25件、住民発言2件、身元調査2件、はがきによる投書1件と合計47件ありましたが、これはほんの氷山の一角にすぎない。まだまだ、わたしたちの住んでいる鳥取市の中でも数多くの差別事象があるということを認識しなければならない。と同時に「気づくための学習」をしていく必要がある。気づかなかつたらダメ。
2. 同和教育との出会い
小学校の同推部で活動して、被差別部落の女性との出会いが大きかった。「好きな人ができたらその人と結婚できるの？」と子どもに聞かれたそのお母さん。子どもにそんなこと言わせる社会って一体何なのだろう。どっぷりつかった私がそこにいた。「自分のおなかの中を見つめ直す」ことが自分の研修に繋がっていった。研修は人のためではない。自分のためにいつも受けてきた。～したらダメではなく、こういう風にしたら、こういう風に考えたら、こういう風に言ったらという具合に自分を変えていった。最後に、自分の住んでいる町がとてもいい所だと言えるような人権意識の高い所にしていこうではありませんかと誓った。

ユニークフェイス 写真展のご案内



わたしたちの住んでいる社会には様々な差別を受けている人々があります。身体差別をはじめ、障害者差別、在日韓朝鮮系人差別、ハンセン病による差別、性別・性障害差別など数多くの差別事象が存在しています。そんな差別の中で今回は偏に障害を持った人たちの勇気ある表現活動「ユニークフェイスの写真展」を湖山地区のみなさんに見て頂きたいと思っています。どのように受け止められるかは各人の良心に任せます。どうかご覧になって、一人でも多くの町民が差別のない街にしていこうではありませんか。

と き：平成16年8月3日（火）～8日（日）
午前9時～午後5時まで
ばしょ：湖山地区公民館2階フロア

ユニークフェイスって何？
私たちはそれぞれ違った顔を持っています。その中でも、先天的な病氣、後天的な病氣・火傷・事故などで、顔や身体が「ユニーク」な方たちがいます。現在日本には、このような当事者が推定数十万人いると考えられています。そのような方々は、ひとたび社会に出ると他者からの好奇の視線にさらされ、生きづらさを感じております。NPO法人ユニークフェイスは、そんな人たちの特徴を「ユニークフェイス（固有の顔）」と表現し、様々な支援を行っています。

当事者としてNPO法人ユニークフェイスに参加されている方の病名（2002年10月現在）単純性血管腫、太田母斑、口唇口蓋裂、レックリングハウゼン病、ケロイド、顔面神経麻痺、白斑、脱毛症、斜視、小耳症、交通事故の傷痕、水疱瘡の痕、海綿状血管腫、限局性リンパ管腫、上顎洞腫瘍、種痘の痕、顔面骨折後遺症、顔面裂傷後、前頭（鼻）異形成、脂肪腫、バセドウ病、第一第二鯉弓症候群、軟骨低形成症、先天性色素欠乏症、手術後の傷痕、莖状血管腫。

第1回人権啓発学習会開催中



ほしめまして / 平成14年秋
湖山地区の同推員です。

影井幸実
三橋和枝
塩坂孝恵
谷尾洋介

